

平成30年度FDシンポジウム

教育学研究科教科教育専攻「教科指導力高度化演習」公開報告会へ参加して

家政教育講座・竹下浩子

1. 報告会の概要

平成31年1月22日（火）午前8:30から10:00まで教育学部3号館4階多目的室にて、教育学研究科教科教育専攻「教科指導力高度化演習」公開報告会が開催された。この報告会は教育学研究科教科教育専攻の大学院生が実際の教育現場をフィールドに研究した内容について報告するもので、2週に分けて行われた。第1回目は前週の1月15日（火）で社会科教育領域、数学体育領域、理科教育領域の大学院生が発表を行ったが、都合が悪く参加できなかった。第2回目の発表では、音楽教育領域、保健体育教育領域、家政教育領域の3教育領域の大学院生がパワーポイントを用いて発表を行い、発表後にそれに関する質疑応答がおこなわれた。

2. 報告内容

最初に発表した保健体育教育領域は、5名の院生のグループでの発表であった。特別支援学校の子どもたちとのかかわりが少なかった保健体育教育の院生らが、視覚的支援の工夫や、様々な場面での子どもたちの実態把握を行った結果、障がい者の豊かなスポーツライフを実現する子どもの資質・能力を育成するだけでなく、将来、特別支援学校で指導にかかわるうえで、指導者である院生自身の不安が少なくなったと感じており、指導者の成長も感じ取れる内容だった。発表に指導前と後の子どもの様子をビデオで確認することで、子どもた

ちの技術力の向上を客観的に見ることができた。

2番目の家政教育領域の発表は、高等学校家庭科における性の多様性に関する授業実践の発表だった。様々な生育環境で育った生徒に対して、ことばのひとつひとつについても精査し、授業を展開していく難しさが感じられたが、先行研究やアンケート調査、授業予備実践などの計画がしっかり立てられていた。そのため、教育的効果などが客観的に評価できており、今後の実践活動での発展が期待できる内容だった。

最後の音楽教育領域の発表は、ミュージカルを通して表現力を高めるための指導についての発表だった。ミュージカルという教育課程ではなかなか実践できない音楽の体験を通して音楽だけの興味・関心を高めるだけでなく、子どもの表現力や感受性を高められ、豊かな人間性を育むことができると感じた。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

ここ20年で学校教育は、地域に開かれた特色ある学校づくりから、社会に開かれた教育課程へと学習指導要領の内容も変わってきている。先の3つの報告は、学校での取り組みではあるが、地域社会とのつながりが十分に意識できる内容であった。そういう意味では、大学院生は、学校教育のカリキュラムへ示唆を与える教育と研究ができる立場であると強く認識できた。